

コレクション展

白いやきもの

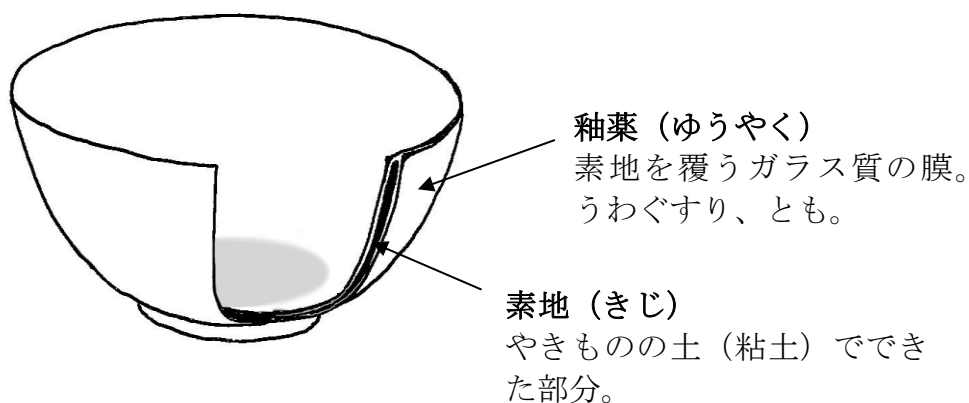
会期：2019年6月1日（土）～6月30日（日）、7月16日（火）～7月28日（日）

●はじめに

一口に「白」と言っても、やきものには幅広い色彩・質感の「白」があります。温かみのある中国の定窯白磁、素朴で力強い朝鮮白磁、白釉がぼつりと掛かる志野焼など…。

今展示では東洋の白いやきものを中心に、その生産技法に着目し、土と釉薬の色に応じて大きく4タイプに分けて展示します。生産地や時代、生産目的によって理想とした「白」の違いをご覧ください。

- ・白い土＋透明な釉薬
- ・有色（茶や灰色など）の土＋白化粧（白泥を塗る）＋透明な釉薬
- ・有色（茶や灰色など）の土＋白い釉薬
- ・白い土（焼き締め）



●白磁（白い土＋透明な釉薬）

白い土に透明な釉薬がかかったやきもの「白磁」の登場は、青磁の誕生から約500年も後の中国・南北朝時代（6世紀中頃）のことです。その要因の一つに、白い土、透明な釉薬を得るのが難しかったことが挙げられます。白いやきものを作るには、白い土の鉱脈を探し当てねばならず、また釉薬の原料から鉄分などの不純物をとりのぞく技術の開発が必要でした。また、初期の白磁のなかには、白い土の上にさらに白化粧を施したり、やや白濁した釉薬をかけたりするものもみられ、なめらかな「白」への希求が白磁誕生の背景にあった様子もみてとれます。

白磁には、植物灰を主要原料とした透明釉をかけ、高火度焼成したもの（青磁の仲間）と、鉛を主要原料とした透明釉をかけ、低火度焼成したもの（三彩の仲間）があります。唐時代末期（9世紀頃）以降は、堅く焼き締まり、丈夫で実用性の高い前者の方が主流となっていきました。その技術は、朝鮮半島には10世紀頃に伝わり、儒教文化によって白を尊んだ朝鮮時代には官窯で質の高い白磁が作られました。日本には16世紀末に伝わり、絵付けの下地として「乳白手（にごしで）」と呼ばれる純白の素地を開発し、輸出先のヨーロッパで人気を博すなど、白磁はそれぞれの地域で独自の発展を遂げました。



●有色の土+白化粧+透明な釉薬

白化粧をして白くしたやきものとしては磁州窯が有名です。磁州窯系諸窯では、定窯白磁の影響を受けて白いやきものが作られました。しかし、素地用の白い土が得られなかったため、灰色の土に白化粧を施し、その上から透明釉ややや白濁した釉薬をかけて、白地の陶器を作りました。磁州窯では、これに彫り文様を施すことにより、素地本来の色を露出させ、白化粧との色のコントラストによって文様を明快にあらわす装飾技法を生み出しました。

磁州窯同様、「白」を追究する中で白化粧へと到達したやきものに、朝鮮時代の粉青(ふんせい)があります。粉青にかかる釉薬は青磁釉に分類されるものですが、釉薬が厚くかかった部分が青濁する程度で透明度が高く、白化粧の色がよく見えます。粉青では、白化粧のかけ方に工夫を施し、スタンプでくぼみをつけた部分にのみ白化粧を埋めこんだり、刷毛で化粧土(白泥)を塗った痕跡をわざと残したりする技法が発展しました。粉青の技法は、日本の唐津焼に伝わり、同様のやきものが焼かれています。

また、白化粧を施して白地を作り、そのうえに鉄顔料などで絵付けを施すやきものも、磁州窯、粉青のほか、タイやベトナム陶磁、京焼の錆絵などで作られました。



展示No.48

●有色の土+白い釉薬

やきものの用語では、しばしば白地に透明釉がかかったものも「白釉陶器」と呼ぶことがあり混乱を招きますが、ここでは失透性の白い釉薬がかかったやきものを紹介します。

白い釉薬には長石(ちょうせき)のほか、藁灰(わらばい)、錫(すず)を主要原料とするものがあります。長石釉を用いたものとしては中国の漳州窯磁器や日本の志野焼などがあります。いずれも絵付けを施すために素地を白くすることを主眼として用いられています。また藁灰釉を用いたものとしては萩焼が有名で、絵付けをせず白い陶器として仕上げられています。唐津焼や高取焼でも褐釉と掛け分けたり、褐釉の上にまだらに施すなど、藁灰による白釉を装飾的に用いています。錫釉は西アジア以西で発展した釉薬で、イスラーム陶器やその技術の系譜をひくスペインのイスパノ・モレスク、オランダのデルフト陶などで使われています。東アジアでは唯一ミャンマーにも伝わっており、白濁した錫釉をベースとして緑彩を施したやきものが焼かれました。



展示No.38

●白い土(焼き締め)

鉄分を含まない良質の白色粘土を焼き締めて作られた「白陶」は、古代の西アジアやヨーロッパ、中国などでみられますが、釉薬のかかったやきものが登場すると陶磁史の表舞台からは姿を消していきます。

白い焼き締め陶器が再び登場するのは、中国の明時代末期(16世紀末)に煎茶が嗜まれるようになってからであり、煎茶道具の涼炉や急須などが作られるようになりました。日本でも江戸時代末期(19世紀)に煎茶が流行し、中国製のものが用いられるとともに、京焼などでも白い焼き締め陶器の煎茶道具が作られました。日本ではこれを「白泥」と呼んでいます。

コレクション展

白いやきもの

会期：2019年6月1日（土）～6月30日（日），7月16日（火）～7月28日（日）

作品リスト

<第1室>

No.	作品名	生産地等		員数	時代		所蔵
1	白磁 円壺	中国		1口	唐時代	8世紀	本館蔵 田万コレクション
2	三彩 円壺	中国		1口	唐時代	8世紀	本館蔵 田万コレクション
3	白磁黒釉 三脚盤	中国		1枚	唐時代	8世紀	本館蔵
4	白磁 蟠龍燭台	中国		1基	唐時代	7世紀	本館蔵
5	白磁 四耳壺	中国		1口	唐時代	7世紀	本館蔵
6	白磁 合子	中国		1合	唐時代－五代	9－10世紀	本館蔵
7	白磁 蓮唐草文鉢	中国	定窯	1口	北宋時代	11世紀	本館蔵
8	白磁 牡丹唐草龍文鉢	中国	定窯	1口	北宋時代	11世紀	本館蔵
9	白磁 鉢	中国	定窯	1口	北宋時代	11世紀	個人蔵
10	白磁 蓮文杯	中国	林東窯	1口	遼時代	12世紀	本館蔵 原晃氏寄贈
11	白磁 鳳首水注	中国	広州西村窯	1口	北宋時代	11世紀	本館蔵
12	青白磁 唐草文水注	中国	景德鎮窯	1口	北宋時代	12世紀	個人蔵
13	白磁 唐草文合子	中国	徳化窯	1合	南宋一元時代	13－14世紀	本館蔵 田万コレクション
14	五彩 水注	中国	景德鎮窯 カーマウ・カーゴ引揚品	1個	清時代	18世紀	個人蔵
15	青花 双鳥図杯・托	中国	景德鎮窯 カーマウ・カーゴ引揚品	2具	清時代	18世紀	個人蔵
16	白磁 水注	中国	徳化窯	1口	清時代	17世紀	個人蔵
17	青花 団花文煎茶碗	中国	景德鎮窯	2口 (8口の内)	明時代	16世紀	個人蔵
18	白磁 三脚炉	中国	徳化窯	1基	清時代	17世紀	個人蔵
19	白磁 大壺	朝鮮半島		1口	朝鮮時代	18－19世紀	個人蔵
20	白磁 有蓋壺	朝鮮半島		1口	朝鮮時代	15世紀	個人蔵
21	白磁 筒形水滴	朝鮮半島		1箇	朝鮮時代	19世紀	個人蔵
22	白磁 円形水滴	朝鮮半島		1箇	朝鮮時代	19世紀	個人蔵
23	白磁 鎬文碗・托	朝鮮半島		1具	朝鮮時代	19世紀	本館蔵 田万コレクション
24	白磁 瓶	朝鮮半島		1口	朝鮮時代	19世紀	個人蔵
25	白磁青花 文字文瓶	朝鮮半島		1口	朝鮮時代	18－19世紀	個人蔵
26	白磁 牡丹文蓋物	日本	伊万里焼	1合	江戸時代	17世紀	本館蔵 岩田久子氏寄贈
27	白磁 蕪文皿	日本	伊万里焼 (初期伊万里)	1枚	江戸時代	17世紀	個人蔵
28	白磁 桔梗形向付	日本	伊万里焼	1口	江戸時代	17世紀	個人蔵
29	白磁 紫陽花文鉢	日本	伊万里焼	1口	江戸時代	17世紀	個人蔵

30	白磁 樹木図鉢	日本	伊万里焼	1口	江戸時代	17世紀	個人蔵
31	色絵 双鶴文皿	日本	伊万里焼 (柿右衛門様式)	1枚	江戸時代	17世紀	本館蔵 岩田久子氏寄贈
32	色絵 鶉花卉文皿	イギリスか	柿右衛門様式写	1枚		18世紀	本館蔵 田万コレクション
33	白磁 花卉文皿	イギリスか		1枚		19世紀	本館蔵 田万コレクション

< 第2室 >

34	黄白釉 蓮弁文六耳壺	ベトナム		1口		11-12世紀	本館蔵
35	白磁 壺	ベトナム	ホイアン・カーゴ引揚品	2口 (37口の内)		15-16世紀	個人蔵
36	白地鉄絵 魚文鉢	タイ	スコータ窯	1口		15-16世紀	個人蔵
37	白釉緑彩 花卉文盤	ミャンマー		1枚		15-16世紀	本館蔵 山西敏一氏寄贈
38	白磁白堆 双龍文盤	中国	漳州窯	1枚	明時代	17世紀	本館蔵 原晃氏寄贈
39	白無地 瓶	中国	磁州窯	1口	北宋時代	11-12世紀	個人蔵
40	白無地 鎬文鉢	中国	磁州窯	1口	北宋時代	11世紀	本館蔵 田万コレクション
41	白無地 鉢	中国	磁州窯系	1口	北宋時代	11世紀	個人蔵
42	白地緑斑 鉢	中国	磁州窯系	1口	北宋-金時代	12世紀	本館蔵 田万コレクション
43	白地搔落 牡丹文如意頭形枕	中国	磁州窯 伝鉅鹿出土	1箇	北宋時代	12世紀	本館蔵
44	白地搔落 唐草文枕	中国	磁州窯系	1箇	北宋時代	11世紀	本館蔵 山口コレクション
45	白地魚子地 牡丹文枕	中国	磁州窯	1基	北宋時代	11-12世紀	本館蔵
46	粉青線刻 祭器	朝鮮半島		1口	朝鮮時代	15-16世紀	個人蔵
47	粉青刷毛目線刻 祭器	朝鮮半島		1口	朝鮮時代	15-16世紀	個人蔵
48	粉青印花 菊花文鉢	朝鮮半島		1口	朝鮮時代	15世紀	本館蔵 田万コレクション
49	粉青印花 連珠文鉢	朝鮮半島		1口	朝鮮時代	15世紀	本館蔵
50	粉青印花 菊花文鉢	朝鮮半島		1口	朝鮮時代	15世紀	個人蔵
51	粉青印花 簾繩文瓶	朝鮮半島		1口	朝鮮時代	15世紀	本館蔵 上本俊平氏寄贈
52	粉青線刻 蕉葉文壺	朝鮮半島		1口	朝鮮時代	16-17世紀	個人蔵
53	粉青鉄絵 魚文瓶	朝鮮半島	鷄龍山窯	1口	朝鮮時代	15-16世紀	個人蔵
54	銹絵 楼閣山水図火炉	日本	尾形乾山 (1663-1743)	1口	江戸時代	18世紀	本館蔵
55	褐釉白斑 半筒茶碗	日本	高取焼	1具	江戸時代	17世紀	本館蔵 田万コレクション
56	志野 草花文向付	日本	美濃焼	3枚 (5枚の内)	桃山時代	16世紀	個人蔵
57	白釉 羊形大手焙	日本	仁阿弥道八 (1783-1855)	1口	江戸時代	19世紀	京都・大中院蔵
58	白泥 詩文文涼炉	日本	尾形周平 (1788-1839)	1基	江戸時代	19世紀	個人蔵
59	白泥人形土 急尾焼	日本	岡田久太 (?-1832)	1口	江戸時代	19世紀	個人蔵

< 1階 美術ホール >

	瑠白磁雲龍紋彫刻花瓶	日本	三代清風与平 (1851-1914, 巖山)	1口	明治-大正期	19-20世紀	本館蔵 藤田清太郎氏寄贈
--	------------	----	---------------------------	----	--------	---------	--------------

大阪市立美術館

Osaka City Museum of Fine Arts

